

保幼小接続スタンダード【増補版】

架け橋への一歩

～これまでの取組を見直そう～



岡山県幼児教育センター

1 これからの幼保小接続



岡山かけはし園の先生（5年目）



岡山架け橋小学校の先生（7年目）



岡山幼児教育センター接続コーディネーター



これまで「**保幼小接続スタンダード**」(※)の考え方で接続を進めてきたけど、これからはどうしたらいいんですか。

※保幼小接続スタンダード



これまで大切にしてきたことは、これからも**変わりません**。まず、「保幼小接続スタンダード」を基に、基本方針をおさらいしておきましょう。



基本方針（保幼小接続スタンダードP.1）

年度内

接続担当者を決定し、接続カリキュラムの準備をします。

- 各校園の担当者を決定します。
- 接続カリキュラムの意義や考え方、ねらいの共通理解を図ります。
- 4月に向けての準備を進めます。

4月から

全体で取り組む体制を整え、教職員の交流を進めます。

- 5歳児や1年生の担任だけでなく、全教職員で関わります。
- 子ども理解を進めながら、具体的な活動や体験を実施します。

随時

接続カリキュラムの検証・改善を図ります。

- 反省を基に、長期・短期サイクル両方の改善を進めます。
- 接続カリキュラムを改善するために、資料等を蓄積（データベース化）していきます。

随時

子どもの姿を柱に語り合います。

- お互いの教育・保育を理解し、ねらいに即しているか検証します。
- 子どもの育ちを基に、指導方法等について語り合います。

ここに示されているように、**全教職員が関わる**ことが重要です。公私立、幼保小の教育方針や教育内容の違いを乗り越え、共に高め合う関係性を構築し、「何を、どのようにつなげていくのか」を考えていきましょう。



「保幼小接続スタンダード」では、「何を、どのようにつなげていくのか」の手掛かりとして「**接続期に育てたい3つの力**」が示されていました。**3法令**(※)で「**幼児期の終わりまでに育てほしい姿**」も示され、混乱しています。

※「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」の3法令

「**接続期に育てたい3つの力**」は、子どもの資質・能力を表しているのに対し、それらが育まれていく過程で見られる生活の姿を総合的に表したものが「**幼児期の終わりまでに育てほしい姿**」です。



子どもの姿から見出される「**接続期に育てたい3つの力**」や「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」は一つではありませんが、その関連は、例えば次の表のように整理されます。



3つの力（保幼小接続スタンダードP.3～4）と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連

3つの力	子どもの姿（関係する幼児期の終わりまでに育ってほしい姿）
生活する力	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具や用具の使い方を守りながら、様々な遊びに挑戦する。（健）（道） ・身の回りのことを自分でしようとする。（自） ・きまりや約束の大切さに気付き、守ろうとする。（道） ・好き嫌いをせず、食事のマナーを守って食べる。（健）（道）
人と かかわる力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思ったことや感じたこと、考えたことを相手にわかるように話す。（言） ・自分にできることは、自分でしようとする。（自） ・友達と積極的に関わり、友達の思いや考えを感じながら行動する。（協） ・みんなで一緒に使う物を大切に扱う。（社）（道）
学 ぶ 力	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の不思議さ、面白さ、美しさなどに気付いたり、感触を味わったりする。（然） ・分からないことを進んで考えたり調べたりして、繰り返し挑戦しようとする。（思） ・いろいろな素材や用具に親しみ、工夫して遊ぶ。（感）（思） ・絵本や物語などに親しみ、イメージを広げる。（数）（感）

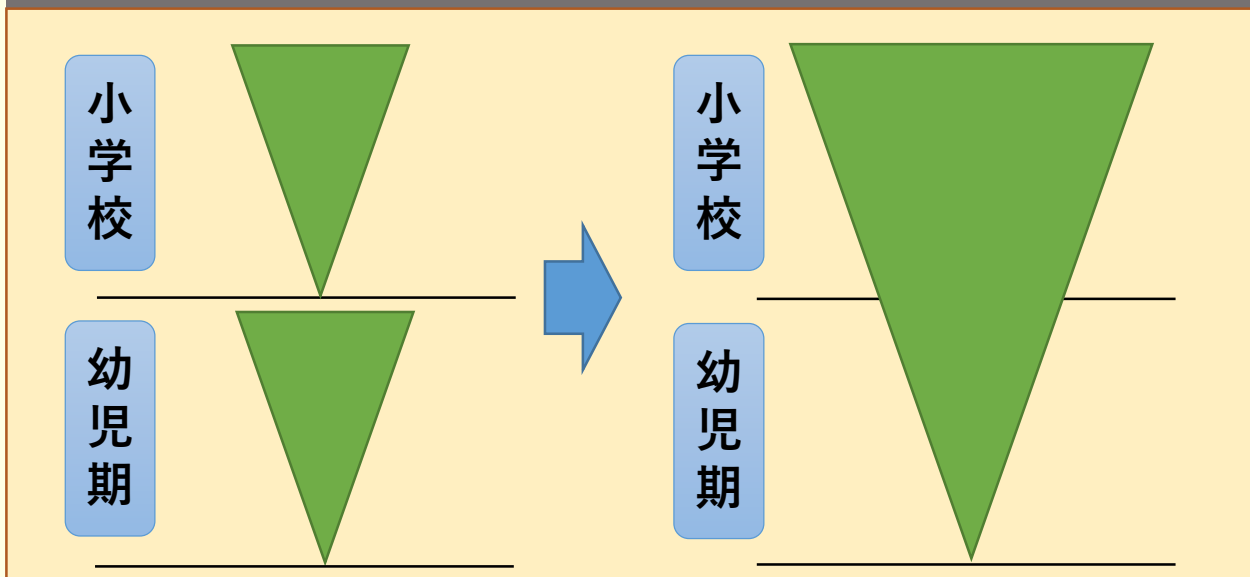
【参考】幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

（健）健康な心と体	（自）自立心	（協）協同性
（道）道徳性・規範意識の芽生え	（社）社会生活との関わり	（思）思考力の芽生え
（然）自然との関わり・生命尊重	（数）数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	
（言）言葉による伝え合い	（感）豊かな感性と表現	

また、小学校の学習を前倒したり、「早く小学生にしよう」としたりするのではなく、下の図のように、**幼児期の育ちと学びを小学校教育で広げていく意識**をもちましょう。



幼児期の育ちと小学校教育の接続イメージ（保幼小接続スタンダードP.15）



なぜ今「幼保小の架け橋プログラム」なのか？



今まで大切にしてきたことは変わらないということが分かりました。これからも、これまでに作ったアプローチカリキュラムで進めていけばいいですね。

それが、そうでもないんです。「保幼小接続スタンダード」の発行から7年が経過し、次に示す課題が見えてきました。



幼保小の接続に関する課題

- ▲ 園に比べて、小学校の接続の必要性に関する意識が低い。
- ▲ 「3つの力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、接続の手掛かりとして十分機能していない。
- ▲ 幼保小の関係者で構成される合同会議はあるが、接続を意識した「共通の視点」が設定されていない。
- ▲ 園と小学校が協働してカリキュラムを検証し、改善するサイクルができていない。

これらの課題を解決するためのものが「**幼保小の架け橋プログラム**」です。



幼保小の架け橋プログラム

幼保小が連携してカリキュラム・教育方法の充実にあたることを推進するために、接続の時期に求められる教育の内容（体制・進め方・工夫等）を改めて可視化したもの

架け橋期：生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる重要な時期（2年間）



架け橋期のカリキュラム：アプローチカリキュラム（5歳児）とスタートカリキュラム（1年生）を一体的に捉えた2年間のカリキュラム



架け橋期のカリキュラムにするためにも、従来の接続カリキュラム（アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム）を見直す必要がありそうだね。



そうだね。カリキュラムだけでなく、連携体制や交流活動も含めて、これまでの取組を一緒に見直してみよう。

2 連携体制や交流活動を見直そう

地域や規模によって実態が異なるので、どこでも通用する完璧な連携体制というものはありません。**実践後の振り返りを大切に**しながら、よりよい体制をつくっていきましょう。こんな連携体制や交流活動になっていませんか？



幼保小の連携体制チェックリスト

- 園内・校内の先生の業務分担に、連携窓口が位置付けられていない。
- 園と小学校の先生同士の交流はあるが、一部の教職員に限られている。
- 園と小学校の先生が、お互いの保育や授業を参観する機会がない。
- 園と小学校の子ども同士の交流活動がない。
- 園と小学校の交流（先生同士・子ども同士）はあるが、事前・事後に話し合う機会をもっていない。
- 交流の機会はあるが、校区内の全ての園（国公立・私立・保育所・幼稚園・認定こども園等）が対象になっていない。

1つでも
当てはまったら

次ページを参照して、連携体制を改善しよう。

教職員間の交流



こんなことから始めよう！

- 管理職間の日常的な交流
- 校務分掌に連携担当を明記
- 園や小学校の参観日に訪問
- 園内研修・校内研修に参加



※リーフレット「幼稚園の姿-遊苑を通して「学びの場」を育もう-」

○小学校の先生が園で保育体験

美作市小学校区の取組



【体験前の事前説明】

リーフレット（※）やドキュメンテーション（映像記録）を活用した幼児教育についての説明

【保育体験】

小学校の先生が、個々の遊び（ままごと・泡遊び・水遊び等）やクラス活動（振り返り・読み聞かせ等）に参加

【振り返り・協議】

幼児の様子を基に、幼児の育ちや学びについての気づきを共有



体験前後に説明や協議が設定されている点がよいですね。



全教職員の取組にするためには、**管理職のリーダーシップ**が不可欠ですね。

○園と小学校の先生で合同授業

和気町小学校区の取組



【指導案作成会議】

園と小学校の先生が、お互いの情報を共有し、協働して行う授業づくり

【合同授業】

園の先生が、TTで1年生の生活科の授業に参加



子ども同士の交流

こんなことから始めよう！

- お互いの行事を応援
- 小学校のグラウンドで一緒に遊ぶ
- お互いの行事や活動に招待する

年間計画に位置付けることで**持続的な取組**になるね。



- 園と小学校で、子ども同士の交流を計画し、**年間計画に位置付ける**

○互恵性のある活動の設定

赤磐市小学校区の取組

幼児と児童の双方にとって**学びのある交流**になっているね。



【**幼児の授業体験**】
1年生と同じ空間で45分間の授業を体験する。

【**児童のねらい**】
園児に親しみをもつと同時に、**上級生になる自覚**をもつ。

【**幼児のねらい**】
入学への期待を高め、**児童と一緒に活動**することを楽しむ。



このような交流活動が大切なことは分かりますが、**体制づくりが難しく教職員が思いを一つにして進めることができません。**

その悩みを解決するために行政があります。例えば、岡山県幼児教育センターには**就学前教育スーパーバイザー**がいますので、相談してみてください。県をはじめ、**市町村等行政の協力を得ることは接続を推進する大きな一歩**になります。





こうして見直してみると、改善すべき点がたくさん見えてきたね。

そうだね。まだ、お互いの理解が進んでいるとは言えないね。接続カリキュラムの見直しに進むには、まだまだ時間がかかりそうだね。



そんなことないんじゃないかな。お互いの理解を深めるためにも、**交流と同時に、カリキュラムの見直しにも取り組んだ方がいいと思うよ。**

そうか。接続の目的は、「カリキュラムを作成すること」ではなく、「**幼保小がお互いに子どもの育ちを中心に据えた対話することで相互理解や実践を深めること**」だったね。



まずは、お互いの接続カリキュラム(アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム)を用意して、見直してみようよ。

岡山県幼児教育センター

☆ 幼保小の接続に関する資料はこちら！



幼児教育に関する研修資料HP



保幼小接続スタンダード



リーフレット「幼児期の育ちと学びの姿」

10分程度の各種
研修動画を掲載
随時更新中！

お問い合わせ先
岡山県教育庁義務教育課
〒700-8570
岡山市北区2-4-6
電話：(086) 226-7584

公式キャラクター



- 【名前】もんちゃん
- 【年齢】5歳3か月
- 【所属】岡山かけはし園
- 【性格】おっとり、好奇心旺盛
- 【好きな食べ物】コロッケ、ゆでたエビ
- 【好きな果物】すいか、りんご
- 【好きな遊び】ダンゴムシごっこ
- 【好きなこと】好きじゃないこと
- 【バッグの中身】今日はドングリ

3 接続カリキュラムを見直そう

今ある接続カリキュラムを見直してみましょう。こんなカリキュラムになっていませんか？ **これまでのものをよりよくなる形で**、園・小学校における教育課程編成・指導計画作成の前提となる架け橋期（2年間）のカリキュラムを作成しましょう。



接続カリキュラムチェックリスト

- 5歳児後半から1年生4月～5月までのカリキュラムである。
- 5歳児のカリキュラム（アプローチカリキュラム）は、小学校の前倒しのような内容になっている。
- 1年生のカリキュラム（スタートカリキュラム）は、小学校に慣れることを目的とした内容にとどまっている。
- 園と小学校が別々にカリキュラムを策定している。
- 園と小学校でめざす子ども像は共有されていない。
- 互いのカリキュラムに書いてあることがよく分からない。
- 年度の途中でカリキュラムについて見直したり改善したりする機会はない。

1つでも
当てはまったら

次ページを参照して、
架け橋期のカリキュラムを作成しよう。

架け橋期のカリキュラム作成の手順とポイントをまとめてみました。



こんなに手順があるんですね。とてもこのとおりにする自信がありません。

このとおりである必要はありません。そもそも地域や学校規模によって**実態や課題は様々なので、それらに合ったものを選択する**しかないんです。それぞれの手順の中に、方法の例をいくつか示しているの**で、まずはできることを選んで始めてみるとよい**ですよ。



架け橋期のカリキュラム作成の手順とポイント

①架け橋期のカリキュラム開発会議を設置する。

- 会議体は、**既存のもの**を利用することが考えられる。

例

- ・学校運営協議会（CS）
- ・校園長会、教務部会等 定期的に開かれる会議

- **構成員**は実態に合わせ、徐々に増やしていく。

例

- ・幼稚園、保育所、認定こども園、小学校
- ・教育委員会、担当部局
- ・教員等養成や研修に関わる大学等
- ・保護者や地域の関係者
- ・架け橋期のコーディネーター
- ・幼保小の関係団体

①幼児・児童の育ちや学びを把握し「めざす子ども像」を決める。

- 園と小学校がそれぞれ、**実際の子どもの姿（よさと課題）**を出し合う。
- 「めざす子ども像」は、**市町村の方針や園・小学校の教育目標、保護者や地域の願い**などを踏まえて設定する。

例

- ・園と小学校の教育目標を比較し、関連付けることで子ども像を設定
- ・架け橋期に焦点化した子ども像を設定
- ・既存の「めざす子ども像」を活用

②「めざす子ども像」実現のために「特に育みたい力」を明確にする。

- 「**接続期に育てたい3つの力**」「**幼児期の終わりまでに育てほしい姿**」「**3つの資質・能力**」を手掛かりにしながら、特に育みたい力を見出す。

例

- ・交流活動の子どもの姿をもとに協議
- ・表や付箋を使って可視化・整理



令和6年3月発行
岡山県幼児教育センター